

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	文化人類学 B		
英文授業科目名	Cultural Anthropology B		
開講年度	2008年度	開講年次	1(2)年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	総合文化科目-人文・社会科学科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	南里 浩子		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ
責任教員・島内景二	

<b>【主題および達成目標】</b>
<p>文化人類学は、人文社会科学の一つとして、人類文化の基礎を学ぶ学問である。前期の文化人類学Aにおいては、人類文化を自然環境との関わり合いを中心にした生態学的な視点と、『交換』を中心にした経済人類学的な視点から見てきたが、この文化人類学Bにおいては、それらを基礎としながら、「社会」や「文化」に一層の比重をおいて考察する。テーマとしては、個人、家族、親族や部族、ジェンダー、王権社会、民族、国民国家といった社会システムのあり方、そしてそれに深くかかわるさまざまな「文化装置」としての言語、宗教、儀礼といった諸現象を、現代社会に生きる私たちの問題として考えながら授業を進める。</p>

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
なし

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
文化人類学A

<b>【教科書等】</b>
<p>参考書：綾部恒雄・田中真砂子「文化人類学と人間」（三五館）                      山下晋司・船曳建夫「文化人類学のキーワード」（有斐閣双書）                      小田亮「構造人類学のフィールド」（世界思想社）                      山下晋司編「文化人類学入門—古典と現代をつなぐ20のモデル」（弘文堂）</p>

【授業内容とその進め方】

授業の内容は、以下の14回の予定である。

- 第1回 文化人類学とフィールドワーク
- 第2回 フィールドワークの手法
- 第3回 個人と親子関係-『父』とは何か
- 第4回 親族と出自1—近くの他人より遠くの親戚
- 第5回 親族と出自2—家族の絆（母系制）
- 第6回 性と結婚-なぜ「女性の交換」か？
- 第7回 婚姻の絆—イトコと結婚する
- 第8回 王権社会の構造—再分配方式
- 第9回 国民国家の成立-近代の政治システム
- 第10回 民族とエスニシティ—新たなアイデンティティ
- 第11回 超自然の世界-宗教とは何か？
- 第12回 儀礼の構造—成人式はなぜ荒れる？
- 第13回 現代の宗教
- 第14回 文化人類学とオリエンタリズム
- 第15回 ジェンダーと文化

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

評価方法：

期末試験および出席・小レポートの結果を、次のように総合評価する

成績評価 期末試験 80%

出席・小レポート 20%

【オフィスアワー：授業相談】

原則として、授業の後の時間に相談に応じる。それ以外でも、適宜相談に応じるが、電話などで事前にアポイントを取ること。

【学生へのメッセージ】

教科書はないが、内容は難しくないので、授業を良く聞いて理解して欲しい。

【その他】